

【評価実施概要】

事業所番号	172000374		
法人名	医療法人社団 松島内科		
事業所名	グループホーム みのり		
所在地	小樽市緑1丁目16番3号 (電話) 0134 - 31 - 7333		
評価機関名	特定非営利活動法人福祉サービス評価Kネット		
所在地	札幌市中央区南1条西5丁目7 愛生館ビル601B		
訪問調査日	平成21年12月26日	評価確定日	平成22年1月20日

【情報提供票より】(21年11月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年5月20日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤21人, 非常勤3人, 常勤換算1.2人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建ての	1 ~ 2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,222 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1か月当たり		35,000 円	

(4) 利用者の概要(11月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名	
要介護1	4名	要介護2	5名			
要介護3	4名	要介護4	3名			
要介護5	1名	要支援2	1名			
年齢	平均	84 歳	最低	62 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松島内科	野齒科医院
---------	------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体組織である医療法人社団松島内科は、グループホームやディサービス、高齢者専用マンションなどを開設し、地域に根ざした医療・介護サービスを展開している。グループホームは住宅街の一角にあり、建物は3階建て、1~2階はグループホームとして、3階は一般市民が入居している。室温調整や採光が適切になされ、居室には洗面台が備え付けられ、一人ひとりが自由に過ごせる空間が確保されており、穏やかに安心して過ごせる環境が整っている。母体が病院のため、24時間対応の連携が強く医療面での支援体制が確立している。家族とは良好な関係を築き訪問も多く、利用者は豊かな表情であり居心地よさが窺われ、家庭的な雰囲気を感じられた。地域との協力体制作りにも積極的に努めており、地域密着型として今後が期待されるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価での改善課題である自己評価などに関しては、それぞれ改善に向けた取り組みをしている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	サービス評価の意義と目的を正しく理解し、職員から意見を聞き話し合い、自己評価を作成している。外部評価においても明らかになった課題をも職員と話し合い共有し、質の向上に活かす機会としている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催している。町内会役員4名を委員とするなど地域との繋がりを重要視している。議事録から自己評価、外部評価、行事予定、運営状況、町内会行事等について熱心に話し合いをしていることが窺える。出席者からの意見要望等については職員との話し合いにより日々のサービス向上に反映している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月家族に対して、写真を多く掲載した「みのり通信」を発行している。「意見箱」の設置や家族から意見や苦情が言いやすいように職員は家族の面会時に声をかけることを心がけている。家族より意見要望があった時は、その都度家族に状況を説明し、職員と話し合い運営に反映している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会への加入や地域の行事やイベントに積極的に参加しているほか、ホームの行事への地域の方の招待等により、利用者との交流に力を入れている。散歩や買い物の際には、自然に地域住民と挨拶や会話などできるように努めている。運営推進会議を通じて、グループホームの存在など地域への働きかけに努めており、それらの取り組みの成果に期待する。

2. 評価結果(詳細)

NPO法人 福祉サービス評価機構 Kネット

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念である「・・・住み慣れた町で普通の生活を続ける・・・」を基本とし、職員全員で話し合いホーム独自の「みのりの目標」をつくりあげており、また、礼儀や言葉遣い、接し方など「職員のお客様への関わり方」など作成するなど日々利用者や家族、地域の方を大切にしていることが窺える。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員がホームの理念や目標を理解し、日常のケアに関わる際に意識して取り組んでいる。またホーム独自で作成した「自分をみつめなおそうシート」で職員自身が実践できたかをチェック確認し、職員としての自己覚知を深めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域とのつながりを重視し、町内会活動に積極的に関わり、地域に溶け込む努力をしている。地域の方にもホーム行事などに参加している。また、町内会の子どもみこしが立ち寄り利用者と交流を深めている。同建物の3階の賃貸住宅の住民の方などホームの行事にきてもらい交流に努めている。		
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員に自己評価表を配布し、項目ごとに話し合いながら自己評価に職員全員で取り組み、外部評価結果を職員に報告し、運営推進会議では評価結果が報告されている。家族が見られるように、評価結果の写しを玄関に備えている。また外部評価結果についても話し合われており、業務の中に反映するなど、外部評価を生かした取り組みが進められている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、2カ月ごとに定期的開催されており、会議記録から利用者の状況や外部評価結果の報告、事業活動、地域の行事・イベントなどに対する意見や話し合いなどを通して、物事に前向きに取り組まれていることが窺える。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市担当者とのグループホームでの受入れ体制など業務上相談や情報収集、事業所連絡会への出席などにより、市の担当者とも連携が図れるようにしている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ホームの活動内容や写真を載せた「みのり通信」を毎月発行し、家族へ送付している。細かいお知らせについては面会時や電話により、入居者のお小遣いの残額など、家族にとって必要な情報がしっかり伝達されており、家族との信頼関係や協力関係を築いている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関入り口には、意見箱が設置しており、意見や要望が出た場合は、迅速に話し合いが持たれる体制になっている。また、ホーム全体として日ごろから家族との交流を図り、気軽に意見や要望を話せるような雰囲気作りに努めている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>家族に職員の異動を報告している。職員が異動等により交代する場合は利用者の特徴や状況について引継ぎを充分行い、周りの職員がカバーしながら利用者への影響が出ないように努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの知識や経験に応じた外部研修に交替で参加し、ホーム内での研修報告が実施されている。また法人内に教育委員会を設置し、内部研修を実施している。専門性の向上やサービス向上に繋げる努力が継続的に行われている。また参加職員が受身にならないようにしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、関連会議に積極的に参加し、他のケアマネジャーや地域包括支援センター、グループホーム関係者と接触しながら情報収集や意見交換を行っている。連絡協議会に加入・参加しており、会議や研修等でのネットワークを通じた情報交換やサービスレベルの向上などの話し合いが定期的に行われ、良い刺激を受けている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者や家族と面談を行い、見学した後に入居となっている。利用者と家族が安心して納得できるよう常に職員が寄り添い、雰囲気に馴染めるよう徐々に工夫しながらサービス開始に努めるなど受入れ体制を整えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の経験や得意なことを見極め、唄や踊りなど活躍できる場面作りを支援している。食事の準備を一緒に行いながら、利用者から味付けなどの調理方法を教えてもらったり、縫い物など利用者から学んだり、互いに支えあう関係づくりを心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者と家族との話しや利用者同士の話に職員はしっかり耳を傾け、日々の生活への意向や希望をつかんでいる。コミュニケーションを大切にしながら利用者との日々の言動や思い、願いを汲み取り確認しており、できない場合には家族から入居前の暮らしや本人の言葉、表情、態度から検討するようにしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>フロアミーティング、全体会議にて話し合われている。センター方式のアセスメントシートやフロアミーティング、申し送りノートなど活用し、本人、家族からの思いや意向を取り入れ、職員が意見を出し合いながら利用者の立場での介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは3ヶ月ごとに行われている。また、その間に状況の変化があれば、期間内でもその都度ユニット内での検討、必要に応じて家族や関係者と話し合うなど見直しや変更を行い、現状に即した新たな計画が作成されている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人や家族の意向を勘案して、病院への通院介助や買い物、ドライブなど外出時の付き添いなどに車両の活用により柔軟に対応するなど支援を行なっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	母体法人が医療機関のため、必要に応じた医療連携体制がとられている。協力医療機関からも適切な医療が受けられている。受診結果についての家族との情報共有にも配慮がなされている。医療連携により週1回看護師の健康管理も行われている。		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	重度化し看取りの必要が生じた場合の終末期の対応として、本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員との連携を図り、随時意志を確認するなど方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	利用者への言葉かけや支援は、一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮し、表情も見守りながら行われている。また個人の使用済みの薬情や記録紙をシュレッターにて処分している。記録は利用者の目に触れないなど責任ある取り扱いに留意し徹底を図っている。		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	基本的な一日の生活の流れの設定はあるが、職員は、利用者の体調やペースなどの生活リズムを大切にしながら、趣味や嗜好に合わせた余暇活動や買い物や散歩などを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	同じ法人施設の献立を基本としながら、個人に合わせた献立の工夫がされている。調理の準備、片付け、お菓子作りなど利用者が得意・関心のあることを把握し、職員と協力して行っている。また、利用者を見守りながら一緒に同じ食事を摂り、食事や料理を話題に会話したり、食事を楽しめる雰囲気作りに心がけている様子が窺えた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴が基本であるが利用者の一人ひとりの習慣やペースを大切にしながら対応している。入りたがらない人にはタイミングを見ながら、様々な声掛けを通じた入浴への促し等の働きかけを工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を生かした役割や趣味、例えば畑や花壇の手入れ、囲碁など癒しや楽しみごとを見出せるように支援されている。また、喫煙ルームやお酒の提供など個人の嗜好に合わせた生活を支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりが本来持っているペースを大切に、天候やその日の利用者の望んでいる気持ちに合わせて、畑作りやホーム周辺の散歩、買い物やドライブ、戸外行事などの外出機会を日常的に行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関等に施錠はしておらず、職員は外出傾向のある利用者を把握しており、声掛けや見守りをしており、又利用者が外に出る時には付き添うようにしている。全職員が鍵をかけることの弊害等について話合われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事故防止、防災マニュアルが作成されている。年に2回、定期的に消防署の協力を得ながら避難訓練、消火器の使い方等の訓練が行われて、不測の事態に備えている。また、運営推進会議でも地域の協力について検討されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量を利用者ごとに記録をし、職員が情報を共有している。食事形態の工夫や素材の味を活かした工夫により日々の健康管理へと生かされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じることでできる飾り付けが行われ、清潔でゆったりしており、居心地良く生活できる空間となっている。温度や湿度の配慮もされており、光の強さや音などにも工夫している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ホーム備え付けの備品以外にも利用者は馴染みのタンスや椅子、仏壇など自宅から持ち込んでおり、家族の写真も飾られている。家庭の延長的雰囲気の中で居心地の良い居室作りへの配慮がなされている。各居屋は利用者それぞれの個性が感じられた。		

 は、重点項目。